

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型）

愛称：年金ぶらす
追加型投信／内外／資産複合

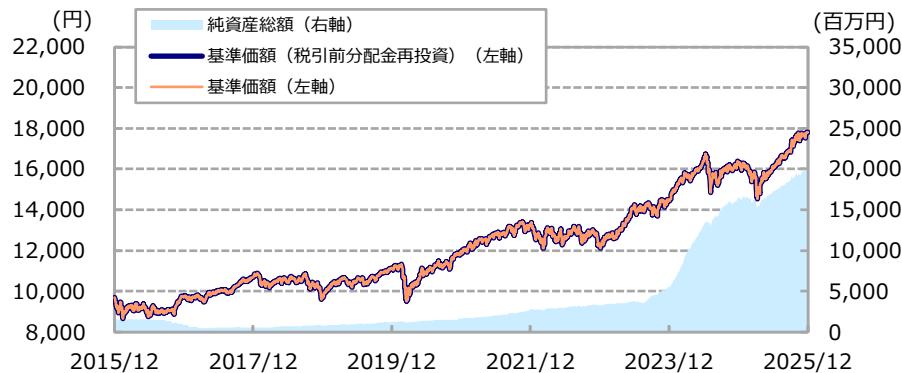


愛称の「年金ぶらす」とは、将来の年金受給とは別の資産形成をめざすことを意味しており、ファンドをお申込みいただくことで年金額が上乗せされることを意味するものではありません。ファンドは投資信託であり、元本が保証されているものではありません。また、公的年金や企業年金ではなく、生命保険会社等が提供する年金商品とも異なります。

日経新聞掲載名：年金ぶらす

基準価額、パフォーマンス等の状況

基準価額・純資産総額の推移



※基準価額は信託報酬控除後のものです。後述の信託報酬に関する記載をご覧ください。

※上記グラフは過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※基準価額は1万口当たりで表示しています。

※設定日は2015年7月17日です。

基準価額・純資産総額

基準価額	17,784 円
純資産総額	20,286 百万円

騰落率（税引前分配金再投資、%）

	ファンド
1ヶ月	+0.17
3ヶ月	+5.16
6ヶ月	+10.30
1年	+8.93
3年	+45.16
設定来	+77.84

※ファンドの騰落率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しているため、実際の投資家利回りとは異なります。

分配の推移（1万口当たり、税引前、円）

期	決算日	分配金
第6期	2021/1/25	0
第7期	2022/1/25	0
第8期	2023/1/25	0
第9期	2024/1/25	0
第10期	2025/1/27	0
設定来累計		分配実績なし

※分配金額は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。

分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。

資産構成（%）

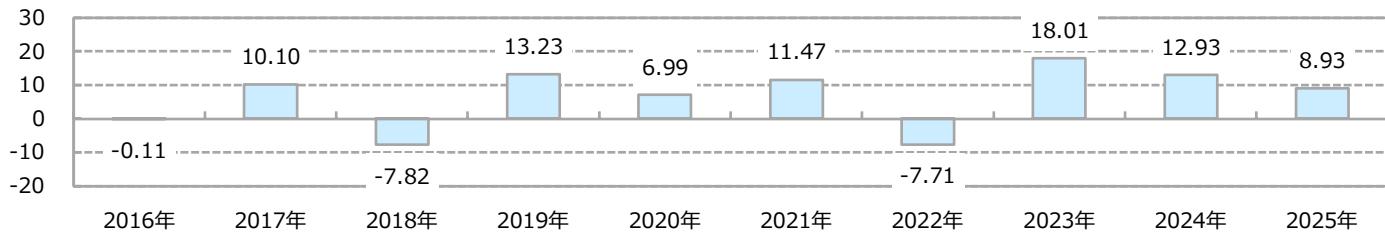
マザーファンド	組入比率	基本資産配分	差
TMA日本債券インデックスマザーファンド	12.4	12.5	-0.1
TMA日本債券マザーファンド	12.4	12.5	-0.1
東京海上・J P X 日経400インデックスマザーファンド	12.7	12.5	+0.2
TMA日本株アクティブマザーファンド	12.4	12.5	-0.1
TMA外国債券インデックスマザーファンド	12.6	12.5	+0.1
TMA外国債券マザーファンド	12.6	12.5	+0.1
TMA外国株式インデックスマザーファンド	12.8	12.5	+0.3
TMA外国株式マザーファンド	12.7	12.5	+0.2
短期金融資産等	-0.5	-	-0.5

※比率は純資産総額に占める割合です。

※短期金融資産には未払金等が含まれるため、組入比率がマイナスとなる場合があります。

年間收益率の推移（%）

※ファンドにはベンチマークがありません。



※ファンドの收益率は、税引前分配金を再投資したものとして計算しています。

※当年は昨年末と基準日の騰落率です。※上記は過去の実績であり、将来の動向等を示唆・保証するものではありません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

TMA日本債券インデックスマザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

純資産総額・騰落率（%）

純資産総額	33,612 百万円
-------	------------

	ファンド
1ヶ月	-1.23
設定来	-7.01

保有債券の属性情報

残存期間（年）	9.14
修正デュレーション	8.06
クーポン（%）	0.84
最終利回り（複利、%）	1.91

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価評価額を基に計算しています。

※途中償還等を考慮して計算しています。

債券種別構成（%）

種別	比率
国債	90.2
地方債	4.5
政府保証債	0.3
金融債	-
事業債	4.6
円建外債	-
MBS・ABS	0.2
短期金融資産等	0.2
合 計	100.0

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

TMA日本債券マザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

純資産総額・騰落率（%）

純資産総額	77,635 百万円
-------	------------

	ファンド
1ヶ月	-1.06
設定来	-6.03

保有債券の属性情報

残存期間（年）	10.28
修正デュレーション	8.08
クーポン（%）	1.57
最終利回り（複利、%）	2.12

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価評価額を基に計算しています。

※途中償還等を考慮して計算しています。

※修正デュレーションは先物を含めて計算しています。

債券種別構成（%）

種別	比率
国債	66.5
地方債	-
政府保証債	-
金融債	-
事業債	30.7
円建外債	1.3
MBS・ABS	1.2
短期金融資産等	0.4
合 計	100.0

※短期金融資産等は、組入有価証券以外のものです。

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

東京海上・JPX日経400インデックスマザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指指数化しています。

組入上位10銘柄 (%)

	銘柄	比率
1	ソフトバンクグループ	1.9
2	三井物産	1.9
3	みずほフィナンシャルグループ	1.8
4	三井住友フィナンシャルグループ	1.8
5	アドバンテスト	1.7
6	トヨタ自動車	1.6
7	三菱商事	1.6
8	伊藤忠商事	1.6
9	東京エレクトロン	1.5
10	三菱UFJフィナンシャル・グループ	1.5

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※株式には新株予約権証券を含む場合があります。

純資産総額・騰落率 (%)

純資産総額	10,276 百万円
-------	------------

	ファンド
1ヶ月	+1.13
設定来	+162.09

TMA日本株アクティブマザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指指数化しています。

組入上位10銘柄 (%)

	銘柄	比率
1	ソニー	5.2
2	トヨタ自動車	4.5
3	三井住友フィナンシャルグループ	4.0
4	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3.7
5	三菱電機	3.6
6	ソフトバンクグループ	3.5
7	日本電気	2.8
8	第一生命ホールディングス	2.6
9	村田製作所	2.6
10	ルネサスエレクトロニクス	2.5

※比率は、純資産総額に占める割合です。

※株式には新株予約権証券を含む場合があります。

純資産総額・騰落率 (%)

純資産総額	132,828 百万円
-------	-------------

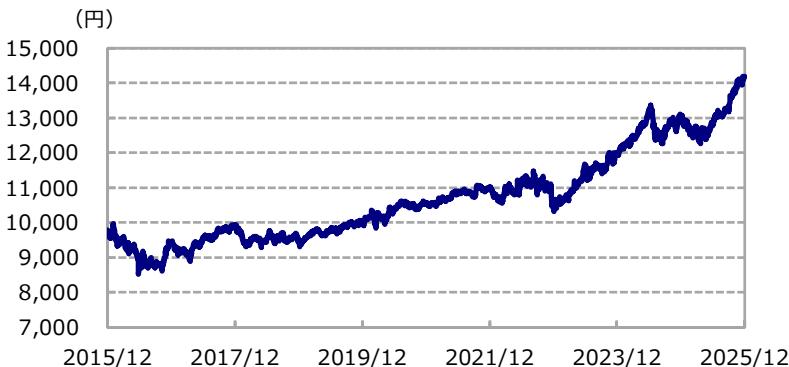
	ファンド
1ヶ月	-0.78
設定来	+191.21

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

T M A 外国債券インデックスマザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

純資産総額・騰落率（%）

純資産総額	31,274 百万円
-------	------------

	ファンド
1ヵ月	+0.48
設定来	+41.85

保有債券の属性情報

残存期間（年）	8.12
修正デュレーション	6.25
クーポン（%）	2.96
最終利回り（複利、%）	3.36

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価評価額を基に計算しています。

国別構成（%）

国	比率
アメリカ	45.2
カナダ	2.1
ユーロ圏	29.1
うち ドイツ	5.6
うち フランス	7.1
うち イタリア	6.7
イギリス	5.9
その他	16.5
合 計	98.7

※比率は、純資産総額に占める割合です。

T M A 外国債券マザーファンド



※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

純資産総額・騰落率（%）

純資産総額	40,219 百万円
-------	------------

	ファンド
1ヵ月	+0.48
設定来	+43.73

保有債券の属性情報

残存期間（年）	9.10
修正デュレーション	6.70
クーポン（%）	3.16
最終利回り（複利、%）	3.65

※各保有債券の数値を加重平均した値です。

※保有債券の時価評価額を基に計算しています。

国別構成（%）

国	比率
アメリカ	45.4
カナダ	2.1
ユーロ圏	27.3
うち ドイツ	3.7
うち フランス	7.4
うち イタリア	8.4
イギリス	9.1
その他	14.6
合 計	98.6

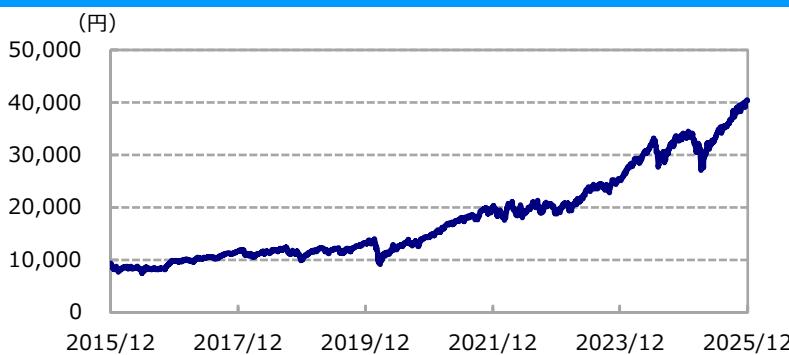
※比率は、純資産総額に占める割合です。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

T M A 外国株式インデックスマザーファンド



純資産総額・騰落率 (%)

純資産総額 427,142 百万円

1ヶ月	+2.01
設定来	+303.39

※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

組入上位5カ国 (%)

順位	国	比率
1	アメリカ	75.6
2	イギリス	3.8
3	カナダ	3.6
4	フランス	2.7
5	ドイツ	2.5

※業種はGICS（世界産業分類基準）産業グループ分類です。

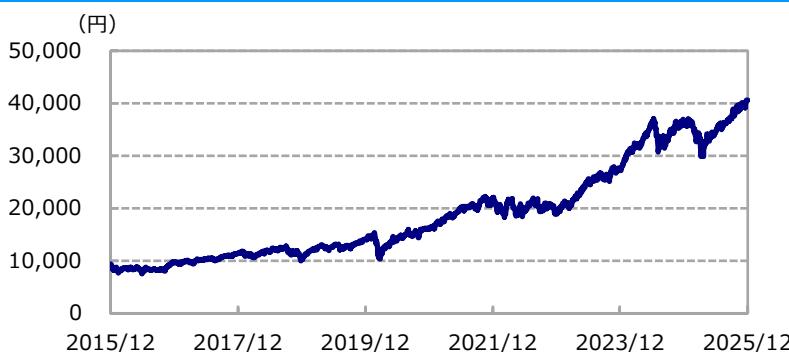
※各比率は、純資産総額に占める割合です。

※外国株式には不動産投資信託証券（REIT）を含む場合があります。

組入上位10銘柄 (%)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	5.7
2	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	5.1
3	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.3
4	AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.8
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	2.3
6	BROADCOM INC	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.0
7	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	1.9
8	META PLATFORMS INC-A	アメリカ	メディア・娯楽	1.8
9	TESLA INC	アメリカ	自動車・自動車部品	1.7
10	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	1.1

T M A 外国株式マザーファンド



純資産総額・騰落率 (%)

純資産総額 99,632 百万円

1ヶ月	+1.28
設定来	+305.65

※上記グラフは基準価額の推移です。過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。

※設定日前営業日（設定日：2015年7月17日）のマザーファンドの値を10,000円として指数化しています。

組入上位5カ国 (%)

順位	国	比率
1	アメリカ	80.5
2	フランス	4.2
3	イギリス	3.2
4	スイス	2.8
5	オランダ	2.4

※業種はGICS（世界産業分類基準）産業グループ分類です。

※各比率は、純資産総額に占める割合です。

※外国株式には不動産投資信託証券（REIT）を含む場合があります。

組入上位10銘柄 (%)

順位	銘柄	国	業種	比率
1	NVIDIA CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	8.4
2	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	7.6
3	AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	4.6
4	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	4.1
5	ALPHABET INC-CL A	アメリカ	メディア・娯楽	3.8
6	VISA INC-CLASS A SHARES	アメリカ	金融サービス	3.7
7	ALPHABET INC-CL C	アメリカ	メディア・娯楽	3.6
8	MASTERCARD INC - A	アメリカ	金融サービス	3.6
9	ASTRAZENECA PLC	イギリス	医薬品・バイオロジカル・ライフサイエンス	2.7
10	TJX COMPANIES INC	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.5

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

主要指指数の動き

	国内株式		国内債券	海外株式	海外債券	為替	
指 数	J P X 日経400 (配当込み)	TOPIX (配当込み)	NOMURA-BPI(総合)	MSCIコクサイ指数 (配当込み、 円ヘッジなし・円ベース)	FTSE世界国債 インデックス (除く日本、 ヘッジなし・円ベース)	円/米ドル	円/ユーロ
2025/11/28	40,390.63	5,949.55	340.28	3,961,874	389.58	156.63 円	181.60 円
2025/12/30	40,848.07	6,010.98	336.03	4,042,382	391.38	156.56 円	184.33 円
騰落（変化）率	1.13%	1.03%	-1.25%	2.03%	0.46%	-0.04%	1.50%

※MSCIコクサイ指数（配当込み、円ヘッジなし・円ベース）は、基準日前日のMSCIコクサイ指数（米ドルベース）を基準日のTTMで委託会社が円換算したもの、FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE世界国債インデックス（国内投信用）を使用しています。

ファンドマネージャーコメント

<運用経過>

当月は、FRB（米連邦準備制度理事会）が12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利を引き下げ、堅調な景気見通しを示したことや米国半導体企業の堅調な決算などから株式市場は堅調に推移しました。

以上の環境下、当ファンドの基準価額は0.17%上昇しました。

当月の投資環境等は、下記の通りです。

<投資環境>

【国内株式市場：日米中央銀行のイベント通過で株価上昇】

12月の国内株式市場は、TOPIXは0.90%上昇（配当込みベースは1.03%上昇）、日経平均株価は0.17%上昇しました。上旬は、植田日銀総裁が利上げに対して積極的な姿勢を示したことが嫌気されたほか、高市政権による積極財政に対する警戒感が高まった一方、11月の米国ADP雇用統計が市場予想を下回ったことを受けた米国の利下げ期待の高まりや、展示会で注目を集めたフィジカルAI（物理空間で稼働する自律型AIシステム）への物色などにより、国内株式市場は小幅に上昇しました。中旬は、FOMCで利下げが決定されたものの、米国ソフトウェア大手の決算発表において過剰投資に対する懸念が高まったことや、一部の投資会社が同社の投資計画への出資を見送ることが報じられたことでAI関連銘柄が軟調となったことなどから、国内株式市場は小幅に下落しました。下旬は、日銀金融政策決定会合で政策金利の引き上げが発表されたものの、会合後の植田日銀総裁の発言が利上げペースを急がない緩和的な姿勢であると市場に受け止められたことなどから、国内株式市場は上昇しました。今後の国内株式市場は底堅い展開を想定します。国内では、一般会計総額が過去最大の122兆円超となる2026年度予算案が閣議決定されるなど、政策的なサポートにも支えられ個人消費や設備投資は底堅く推移すると考えます。しかし、原材料価格や人件費の上昇などを背景とした製品価格の値上げ、日銀の利上げや積極財政などに対する警戒感の高まりによる10年国債利回りの上昇など、個人消費や企業の設備投資意欲への下押しなどのリスクには留意する必要があると考えます。

【国内債券市場：国内長期金利は上昇】

12月の国内長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。上旬、月初の講演で植田日銀総裁による利上げの可能性を示唆する発言をきっかけに、12月の金融政策決定会合における利上げの可能性を織り込むかたちで、10年国債利回りは上昇基調となりました。中旬には、FOMCで利下げが実施され、米国長期金利が低下したことを受け、10年国債利回りも一時低下に転じましたが、日銀による利上げの可能性がくすぶるなか、徐々に水準を切り上げる展開となりました。追加利上げが決定した後は、円安が進行するなかで10年国債利回りは2%を上回る水準に上昇しました。下旬以降は、円安が一服したこと、高市首相が「無責任な国債発行や減税は行わない」と発言したこと、2026年度の新規国債発行額が2025年度当初予算対比で微増にとどまつたことなどが好感され、10年国債利回りは低下に転じましたが、年末にかけては、日銀の「金融政策決定会合における主な意見」で利上げ継続姿勢が示されたため再び上昇し、2.0%台後半の水準で当月を終えました。今後の国内債券市場は、日銀は利上げ路線の継続を示唆しており、市場参加者間でも2026年度以降の追加利上げシナリオを織り込む動きが活発化するなか、長期金利には上昇圧力がかかりやすい局面が当面継続すると想定します。また、2026年度の新規国債発行に関して、短中期国債は増額、超長期国債は減額となったことも考慮すると、今後、短中期国債利回りには上昇圧力がかかりやすい一方、超長期国債利回りの上昇幅は限定的なものにとどまる予想します。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

ファンドマネージャーコメント（続き）

【海外株式市場：米国の堅調な景気見通しを背景に上昇するも、IT関連銘柄に対する懸念から横ばい】

12月の海外株式市場は、前月末対比でおおむね横ばいとなりました。月前半は、FRBが12月のFOMCで政策金利を引き下げ、堅調な景気見通しを示したこと背景に海外株式市場は上昇したものの、IT関連銘柄のバリュエーション（投資価値を図るための指標）に対する懸念が高まったことを受けて下落しました。月後半は、市場予想を小幅に下回る米国CPI（消費者物価指数）の結果を受けて、利下げ期待が高まつたことや、半導体大手の決算および業績見通しが良好であったことが好感され、海外株式市場は上昇しました。今後の海外株式市場は、当面は、トランプ米政権が発表した相互関税によるマクロ経済や企業業績への影響を見極める動きや金融政策の動向により、ボラティリティ（変動性）の高い展開が予想されます。米国の中間選挙までは株式市場は上値の重い展開が予想されるものの、企業業績の増益基調が維持されるなか、今後予想されるFRBによる利下げもサポート要因となり、海外株式市場は上昇していく展開を予想しています。

【海外債券市場：米国債利回り、ドイツ債利回りともに上昇】

12月の米国債利回りは上昇しました。月前半、11月の米国ADP雇用統計が労働市場の冷え込みを示し、FRBによる追加利下げ期待が高まつたことで、米国債利回りは低下する場面があったものの、市場予想を上回る経済指標が相次いだことから、上昇基調で推移しました。その後、FOMCで利下げが決定され、事前の想定ほど金融引き締め的な牽制がみられなかったことや、クリスマス休暇を前に持ち高調整の買いが入ったことなどから、米国債利回りは低下基調に転じたものの、月を通して上昇しました。12月のドイツ債利回りは上昇しました。複数のECB（欧州中央銀行）高官から利下げサイクルの終了を示唆する発言があったことに加え、ユーロ圏経済の底堅さを示す経済指標が相次いだことなどを受け、ECBが2026年後半にも利上げを開始するとの観測が一部で浮上し、ドイツ債利回りは月末にかけて上昇基調で推移しました。新興国債券と先進国債券のスプレッド（利回り格差）は、小幅に低下しました。FOMCによる金融引き締め的な牽制が事前の想定よりもみられなかったことなどを受け、投資家のリスク許容度が改善し、新興国債券の買い戻しが優勢となりました。今後の米国債利回りは、関税政策によるインフレ長期化への懸念が残るもの、FRBは労働市場の下方リスクを注視しつつ利下げを継続する見込みであり、緩やかな低下基調で推移する展開を予想します。ドイツ債利回りは、ユーロ圏における物価や経済指標に落ち着きが見られるなか、ECBは当面様子見姿勢を維持する見込みであることから、おおむね横ばい圏での推移を予想します。

【為替市場：米ドルに対しておおむね横ばいも、ユーロに対しては円安が進行】

12月の米ドル円為替レートはおおむね横ばいとなりました。月前半は、植田日銀総裁が追加利上げの是非に言及したことや、FOMCで利下げが決定されたことなどから、一時円高が進行しました。しかし、その後は日本の2026年度予算案の規模拡大に伴う財政悪化懸念から、円安が進行するなど不安定な展開となりました。月後半には、日銀が追加利上げを決定したものの、材料出尽くし感から円売り・米ドル買いが優勢となる場面もあり、月を通してはおおむね横ばいとなりました。ユーロ円為替レートは円安ユーロ高となりました。月初、日銀による12月利上げの可能性が高まつたことで、円高ユーロ安となる場面があったものの、その後、ECBが2026年後半にも利上げを開始するとの観測が一部で浮上したほか、日本の財政悪化に対する懸念が意識されたことが円売り・ユーロ買いを促し、月を通しては円安ユーロ高となりました。今後の米ドル円為替レートは、高市政権下での財政拡大懸念などから円安リスクが残存するものの、中長期的には米国の利下げや日銀の利上げへの思惑を受けて、円高米ドル安基調となる展開を予想します。ユーロ円為替レートは、ECBが様子見姿勢を維持するなか、日銀による追加利上げへの思惑を受けて、中長期的に円高ユーロ安基調となる展開を予想します。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

ファンドの特色（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

1. 公的年金の基本ポートフォリオ※を参照し、国内外の複数の資産に分散投資することにより、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざして運用を行います。

※ 公的年金のうち「国民年金」と「厚生年金保険」の積立金を管理・運用する年金積立金管理運用独立行政法人（以下、GPIF）の基本ポートフォリオです。

ファンドは、東京海上アセットマネジメントが公的年金の基本ポートフォリオを参照して、独自に基本資産配分比率を決定するものであり、公的年金やGPIFと何ら関係を有するものではありません。

ファンドの運用は、GPIFの投資成果に連動することをめざすものではありません。また、生命保険会社等が提供する年金商品とは異なります。

- 中長期的なリターンをより重視する観点から、公的年金の基本ポートフォリオを参照し、各投資対象資産（日本債券・日本株式・外国債券・外国株式）の基本資産配分比率を決定します。
- 主としてマザーファンドへの投資を通じて、国内外の複数の資産（日本債券・日本株式・外国債券・外国株式）に分散投資します。
- 各資産への投資にあたっては、市場平均と同程度の投資成果をめざすインデックスファンドと、市場平均を上回る投資成果をめざすアクティブファンドを、各資産ごとに、それぞれ50%程度ずつ組み合わせます。
- 基本資産配分比率を基準に、原則として各資産ごとに一定の範囲内（±5%）に収まるように調整します。
- 実質組入外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行いません。
- 各マザーファンドへの投資割合は、以下の基本投資比率とします。

	基本資産配分比率	マザーファンド	基本投資比率	主な投資対象
日本債券	25%	T M A 日本債券インデックスマザーファンド	12.5%	日本債券 (国債、社債等)
		T M A 日本債券マザーファンド	12.5%	日本債券 (国債、社債等)
日本株式	25%	東京海上・J P X 日経400インデックスマザーファンド	12.5%	日本株式 (JPX日経400採用銘柄)
		T M A 日本株アクティブマザーファンド	12.5%	日本株式
外国債券	25%	T M A 外国債券インデックスマザーファンド	12.5%	外国債券 (先進国の国債)
		T M A 外国債券マザーファンド	12.5%	外国債券 (先進国の国債)
外国株式	25%	T M A 外国株式インデックスマザーファンド	12.5%	外国株式 (先進国の株式)
		T M A 外国株式マザーファンド	12.5%	外国株式 (先進国の株式)

公的年金の基本ポートフォリオが変更された場合には、委託会社の判断により「基本資産配分比率」、「基本投資比率」および「投資対象資産」を変更することがあります。

2. 年金運用で実績のある東京海上アセットマネジメントの運用ノウハウを活用します。

資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

【分配金に関する留意事項】

- ・分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので分配金が支払われるとき、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。受益者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全額が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ・将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

ファンドの主なリスクについて（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

- 投資する有価証券等の値動きにより基準価額は変動します。したがって、投資元本は保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用による損益は、全て投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険と異なります。
- ファンドへの投資には主に以下のリスクが想定されます。

- 価格変動リスク : 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績・財務状況、市場の需給等を反映して変動します。株価は、短期的または長期的に大きく下落することがあります（発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。）。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
- 金利変動リスク : 公社債は、一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、反対に金利が下落した場合には価格は上昇します。したがって、金利が上昇した場合、基準価額が下落する要因となります。
- 信用リスク : 一般に、公社債や短期金融商品等の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合、またはデフォルトが予想される場合には、当該公社債等の価格は大幅に下落することになります。したがって、組入公社債等にデフォルトが生じた場合、またデフォルトが予想される場合には、基準価額が下落する要因となります。
- 為替変動リスク : 外貨建資産の円換算価値は、資産自体の価格変動の他、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。為替レートは、各国・地域の金利動向、政治・経済情勢、為替市場の需給その他の要因により大幅に変動することがあります。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向にすすんだ場合には、基準価額が下落する要因となります。
- カントリーリスク : 投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想以上に下落したり、投資方針に沿った運用が困難となることがあります。
- 流動性リスク : 受益者から解約申込があった場合、組入資産を売却することで解約資金の手当てを行うことがあります。その際、組入資産の市場における流動性が低いときには直前の市場価格よりも大幅に安い価格で売却せざるを得ないことがあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

【当資料で使用するインデックスについて】

※ J P X 日経インデックス400は、東京証券取引所のプライム市場、スタンダード市場、グロース市場を主市場とする普通株式等のうち、時価総額、売買代金、ROE等を基に、株式会社 J P X 総研（以下「J P X 総研」といいます。）および株式会社日本経済新聞社（以下、日経といいます。）が選定した、原則400銘柄で構成される株価指数です。起算日は2013年8月30日・基準値は10000ポイントです。J P X 日経インデックス400および同指数に配当収益を加味した配当込 J P X 日経インデックス400（以下、総称して「J P X 日経400等」といいます。）は、J P X 総研および日経によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、J P X 総研および日経は、J P X 日経400等自身および J P X 日経400等を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。J P X 総研および日経は、J P X 日経400等を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。ファンドは、委託会社等の責任のもとで運用されるものであり、J P X 総研および日経は、その運用およびファンドの取引に関して、一切の責任を負いません。

※配当込みTOPIX（以下「TOPIX（配当込み）」といいます。）は、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数であり、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。TOPIX（配当込み）の指數値およびTOPIX（配当込み）にかかる標章または商標は、株式会社 J P X 総研または株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指數の算出、指數値の公表、利用等TOPIX（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX（配当込み）にかかる標章または商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX（配当込み）の指數値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。ファンドは、J P X により提供、保証または販売されるものではなく、ファンの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。

※NOMURA-BPI（総合）とは、野村フィデューシャリー・リサーチ＆コンサルティング株式会社（以下、NFRC）が公表する日本の公募債券流通市場全体の動向を的確に表す代表的な指標です。NOMURA-BPIは、NFRCの知的財産です。NFRCは、ファンドの運用成績等に関し、一切責任ありません。

※MSCIコクサイ指数とは、MSCI社が発表している日本を除く主要先進国の株式市場の動きを捉える代表的な株価指標です。同指標の著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI社に帰属します。また、MSCI社は同指標の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI社の許諾なしにインデックスの一部または全部を複製、頒布、使用等することは禁じられています。MSCI社はファンドとは関係なく、ファンドから生じるいかなる責任も負いません。

※FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

お申込みメモ（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

購入単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
換金単位	販売会社が定める単位。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して、5営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として午後3時30分までに、販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。なお、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金 申込不可日	以下に該当する日には、購入・換金のお申込みができません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日
信託期間	無期限（2015年7月17日設定）
繰上償還	以下に該当する場合等には、繰上償還することがあります。 ・受益権の総口数が10億口を下回ることになったとき ・ファンドを償還することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
決算日	1月25日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年1回の決算時に収益分配方針に基づき、収益分配を行います。 ※販売会社との契約によっては再投資が可能です。 ※分配対象額が少額の場合等には、分配を行わないことがあります。
課税関係	収益分配時の普通分配金、換金時および償還時の差益に対して課税されます。 課税上は株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は、税法上、一定の条件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA」の適用対象となります。 ファンドは、「NISA」の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。 受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および連合会等の場合は、所得税、復興特別所得税および地方税はかかりません。また、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。 ※税法が改正された場合等には、内容等が変更される場合があります。

ファンドの費用（詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。）

■ 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に対して <u>上限2.2%（税抜2%）</u> の範囲内で販売会社が定める率をかけた額とします。 詳しくは販売会社にお問い合わせください。
信託財産留保額	ありません。

■ 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの純資産総額に <u>年率1.3695%（税抜1.245%）</u> をかけた額とします。
その他の費用・ 手数料	以下の費用・手数料等がファンドから支払われます。 ・監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用 ファンドの純資産総額に年率0.011%（税込）をかけた額（上限年99万円） ・組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料 ・資産を外国で保管する場合にかかる費用 ・信託事務等にかかる諸費用 ※ 監査にかかる費用を除く上記の費用・手数料等は、取引等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、事前に表示することができません。

※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、東京海上アセットマネジメントが作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。お申込みに当たっては必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）は販売会社までご請求ください。
- 当資料の内容は作成日時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載された運用実績は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合には、この他に為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- 投資信託は、金融機関の預金とは異なり元本が保証されているものではありません。委託会社の運用指図によって信託財産に生じた利益および損失は、全て投資家に帰属します。
- 投資信託は、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 投資信託は、預金および保険契約ではありません。また、預金保険や保険契約者保護機構の対象ではありません。
- 登録金融機関から購入した投資信託は、投資者保護基金の補償対象ではありません。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社：東京海上アセットマネジメント株式会社

ファンドの運用の指図を行います。

商号等： 東京海上アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第361号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

- 受託会社：三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理を行います。

- 販売会社

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	一般投資顧問業	一般金融社団法人	第一種金融商品取引業協会
株式会社 足利銀行	○		関東財務局長（登金）第43号	○		○	
株式会社 イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○		関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社 池田泉州銀行	○		近畿財務局長（登金）第6号	○		○	
株式会社 SBI証券		○	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
株式会社 SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社 SBI証券)	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社 SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	○		関東財務局長（登金）第10号	○		○	
株式会社 愛媛銀行	○		四国財務局長（登金）第6号	○			
株式会社 神奈川銀行	○		関東財務局長（登金）第55号	○			
株式会社 群馬銀行	○		関東財務局長（登金）第46号	○		○	
CHEER証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第3299号	○	○		
ちばぎん証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第114号	○			

Monthly Report

東京海上・年金運用型戦略ファンド（年1回決算型） 愛称：年金ぶらす

委託会社、その他関係法人

商号（五十音順）	登録金融機関	金融商品取引業者	登録番号	加入協会			
				日本証券業協会	一般投資顧問業	一般金融社団法人	第一種金融商品取引業協会
株式会社 西日本シティ銀行	○		福岡財務支局長（登金）第6号	○		○	
松井証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三菱UFJ eスマート証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
水戸証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第181号	○	○		
株式会社 山形銀行	○		東北財務局長（登金）第12号	○			
楽天証券株式会社		○	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※販売会社によっては、現在、新規申込みの取扱いを中止している場合があります。

当ファンドの照会先

前掲の販売会社または下記までお問い合わせください。

東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016 受付時間：営業日の9時～17時
ホームページ <https://www.tokiomarineam.co.jp/>

東京海上アセットマネジメント
YouTube公式チャンネル

ファンド・マーケット関連動画などを公開しています。



※11ページの「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。